



ネパールからみえるエベレスト（清水直美さん提供）

ネパール支援プロジェクト

「飛んでけ！車いす」の会



2015.10.10

ネパール地震、そこから、わたしたちにできること

[文責 下村 朋史]

80年ぶりの大地震で起きたこと

平成 27 年 4 月 25 日、ネパールゴルカ地方で一回目の大きな地震が起きました。5 月 12 日には、コタリ地方で二回目の地震が発生しました。ネパールは、比較的大きな地震が周期的に発生する地域なのですが、日常的には地震は起きないとのこと。

今回の地震も 80 年ぶりの地震で、多くの人たちは、何が起きたのかわからない状況だったようです。多くの人が、再び地震が発生することが恐怖であり、テント生活をする様子なども見られます。首都のカトマンズは、古いレンガ造りの建物も多く、現在でも復旧が進んでいません。

現地を訪問した清水直美さんが見た現状

二度目の地震発生から約一ヶ月半後の 6 月 29 日から 7 月 4 日に、元 JICA 看護師の清水直美さんがネパールを訪問し、車いすを届けてくれました。

ネパールの首都カトマンズは、古い建物が多く、地震によって家が倒壊している様子が写真でも報告されています。



ネパール地震

- 2015年4月25日現地時間午前11時56分
震源地：カトマンズの西方約77km（ガンダキ県ゴルカ郡サウラバニ付近）
震源の深さ：約15km、地震の規模を示すマグニチュード：7.8(Mw)
- 2015年5月12日現地時間0時50分
震源地：カトマンズの北東約76km（コタリ付近）
震源の深さ：約15km、地震の規模を示すマグニチュード：7.3(Mw)



写真・図表の提供 清水直美さん

地震後に起きた支援の必要性

現地に滞在する元 JICA 職員で理学療法士、現在ポカラにいる西嶋望さんから、サンガ州のリハビリセンターの状況が、「飛んでけ」に届きました。サンガ州には、リハビリセンターがありますが、通常 50 床のところ、現在 150 床になっているとのこと。リハビリセンターでは車いすを貸し出しますが、そこから自宅に帰るときには車いすは渡せないとのこと。既に定員を超えて、入院待ちの方も数多くいるようです。

地震後に、なぜそれほどリハビリセンターに人が集まったかということ、地震発生時、地震に慣れていない人たちは、怖くなって二階以上の建物から飛び降りてしまうこと。また、瓦礫に埋まり、助け出される際に脊椎を痛めることが数多く発生したことが原因になっているようです。

現地にいる西嶋さんからは、こうした人たちに対して、日本の車いすの提供依頼が届いています。



写真提供 西嶋望さん

これから「飛んでけ！車いす」の会で取り組むこと

ネパールでは、これから国内産のアルミ製車いすを 50 台製造する予定があるそうです。しかし、現在の製造技術では、同一機種の子車いすしか製造できません。

現在、現地からは「飛んでけ」に、多様なサイズ、機種の子車いすの提供依頼を受けています。そこで、ネパール支援の当面の目標を、多様な機種を一部保管するため、**50 台**の子車いす輸送を目標に、支援活動を開始します。

10 月 10 日現在、今後の輸送予定も含め、**13 台**の子車いすが運ばれます。目標は **37 台**になります。

現在、預け入れ手荷物のオーバーチャージ費用 1 台あたり約 2,000 円を会で負担すること、また、ネパール国内の子車いすの引き取り、引渡しにかかる移動費用を旅行者や現地の方が負担しないように、「**ネパール支援基金**」を募っています。

今後、ネパール支援の進捗や現地情報について、Web や報告会などを通じて、情報発信をしていきます。ぜひ関心を持ち続けて、活動に参加協力を、ぜひよろしくお願いします。

参加の形（例）

- ・ネパールへ車いすを運ぶ旅行をする
- ・ネパールへ旅行する人を紹介してもらう
- ・支援基金に寄付をする
- ・Web でネパール支援の状況を拡散する
- ・報告会等に参加する
- ・何ができるかとりあえず活動の門をたたいてみる などなど



FB から抜粋：
渡邊雅之さんの投稿写真

札幌の NPO 法人「飛んでけ！車いす」の会からの車いすをカトマンズ自立生活センターで預かっていただきました。

（右手前：クリシュナさん 右後ろ：渡邊さん）

